西浮通信

令和４年１月１１日
ＮＯ．３７６
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

謹んで初春のお慶びを申し上げます

校長　小島　みつる

コロナ禍が続く今年の元旦も素晴らしく気持ちの良い晴天で、日々の鬱々とした気持ちを吹き飛ばすように、明るい気持ちで新年を迎えることができました。保護者や地域の皆様には、本年もどうぞよろしくお願いいたします。今年の干支は「壬寅（みずのえとら）」。厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となる年という意味があるそうです。With コロナの時代に明るい変化と成長がある年になるとよいですね。

昨年12月16日～18日に実施しました学芸会では、児童の健康管理は元より、同居のご家族皆様の健康管理にご理解とご協力をいただきましたおかげで、舞台の上ではマスクを外して表現活動を行うことができました。もちろんマスクを外すことは強制しておりませんので、マスクを着用したまま舞台に立った児童もおりましたが、みな、「演じる」という活動を心から楽しみ、仲間と協力して一つのものを創り上げる貴重な体験から自己有用感や達成感を味わうことができたと思います。また、他学年の発表を鑑賞する態度も大変素晴らしかったです。どの学年の児童も劇が始まると誰に注意されなくても私語をやめ、楽しい場面では大いに笑い、感動する場面では涙を流し、真剣に楽しみながら鑑賞していました。舞台は演じる側だけで完成するものではない、演じる人・観る人全員で作り上げるもの、ということが体現できた学芸会でした。初めての取組となった座席指定をはじめ保護者鑑賞日の皆様のご協力にも深く感謝申し上げます。

さて、学校生活の中では、教科書を一緒に読む、合唱する、かけ算九九を唱えるなど、マスクをしながらも子供たちが声を合わせる場面がたくさんあります。声を合わせるには吸ったりはいたりする「息を合わせる」ことが必要です。慣用句で「息が合う」は「両方の調子や気持ちがぴったり一つになる」という意味になります。声を合わせるためには、他の人に気を遣い、タイミングやペースを合わせねばなりません。つまり、声を合わせることは、気持ちを合わせることにつながるのです。上手に声を、息を、気持ちを合わせることができれば、けんかやいじめも少なくなるはずです。ところで、ご家庭の親子関係は、「息の合ったコンビ」になっているでしょうか？最高に息が合うことを「阿吽（あうん）の呼吸」といいますが、あまり口をきかない「**ああ、うん、だけの呼吸**」になっていないでしょうか？そこで、ぜひお勧めしたいのが「親子で声を合わせての音読」です。低学年の子供たちには、ほぼ毎日音読の宿題が出ています。「毎日、同じ話を聞かされて（子供の音読を聞かされて）、耳にたこができちゃいそう。」と思われている保護者の方もいらっしゃるかもしれません。そうお思いの方も、聞くだけではなく、子供と一緒に声を出して読んでみる＝「息を合わせてみる」と、思いがけない発見があるかもしれません。また、高学年の子供で「一緒に音読はちょっと･･･」というご家庭では、ぜひ、「親子で一緒に読書」をお勧めします。「息を合わせる」は表現として表に見えることだけでなく「気持ちがぴったり合う」という意味もあります。最初はまず、子供の好きそうなジャンル・書籍を選んで「お母さんと・お父さんと一緒に読もう。」と声をかけてみてください。本嫌いな子供に「本を読みなさい！」といくら言っても効果はありません。でも、「一緒に読もう」は子供を本好きに変える魔法の言葉になるかもしれません。親子の仲がますます深まり、子供が本好きになれば、正に一石二鳥です。たくさんもらったお年玉で、自分の読みたい本を選んで買うということも、意義のあることと思います。暖かい部屋で、声を合わせて「親子音読」、気持ちを合わせて「親子読書」、冬の夜の素敵な過ごし方ではないでしょうか。